

共創先導プロジェクト（共創促進研究）
日本関連在外資料調査研究
「日本・バチカン関係アーカイブズの情報基盤構築に関する研究」基本計画

令和4年4月1日
人間文化研究機構

【プロジェクトの概要等】

① プロジェクトの概要

本研究プロジェクトは、人文機構の在外プロジェクトの一環として実施している国文研のマレガ・コレクション調査の成果を引き継ぐものである。これまでは図書館所蔵のマレガ・コレクション（主にマレガが日本国内で収集した近世切支丹禁制関係文書）を対象にしてきたが、今後はマレガの活動を支えたバチカンの関わり方、切支丹コレクション収集をはじめとする日本文化に対するバチカンの意図などコレクション形成のバックボーンを解明し、コンテンツの分析からコンテキストの解明につなげていくためにバチカン使徒文書館・国務省文書館・福音宣教省歴史文書館・パリ海外宣教師教会文書館における関連文書の調査・収集を行い、目録を作成してデータベースを構築することで文書の全容を明らかにすることが目標である。

上記の対象文書のなかでも東京にあったバチカンの駐日使節館は、日本在住の宣教師を保護・監督する役割を担っていたことから、駐日使節館文書の調査・分析が不可欠であり、これらの記録を通して個々の宣教師の活動に止まらず、彼らが日本社会に与えた影響、そして、バチカンが日本との関係をどのように築こうとしていたのか、さらには、日本社会にどのような影響を与えようとしたのかが明らかになる。

ただし、駐日使節館文書は水損などによって保存状態が悪いため、現時点で速やかに閲覧することは不可能である。そこで、本研究プロジェクトでは、まず文書館と共同で修復作業を行い、使節館文書のうち重要文書のデジタル撮影および文書群の目録化、ならびに関連記録の調査を実施する。

以上の具体的な活動は、以下6つの目標から構成される。①使節館文書の修復作業およびデジタル化/②使節館文書の目録化と内容の調査分析/③使徒文書館に保存されている使節館文書以外の個人文書を含む日本関係文書の調査/④バチカン使徒文書館以外の国務省文書館・福音宣教省歴史文書館所蔵の関連文書調査/⑤パリ海外宣教師教会文書館（パリ：日本を含む東アジア布教を担当し宣教師を派遣）・サレジオ教会（東京：マレガおよびチマッティ関連）などバチカン関連施設の関連文書調査/⑥収集情報のデータベース化と国際的成果発信（2026～27年度）。

以上の作業・調査研究は、日本およびバチカン・イタリア側と共同で行い、最終的には調査文書の全体をデータベース化して、日本・バチカン関係史を研究するうえで必要不可欠なアーカイブズ情報基盤を構築する。また、情報基盤構築に合わせて国際シンポジウムをバチカンで開催し報告集を刊行する。

② プロジェクトの統括、運営体制

本研究は研究代表者加藤聖文（国文学研究資料館）が統括し、分担者として太田尚宏（国文学研究資料館）/湯上良（学習院大学）/高科真紀（国立歴史民俗博物館）/橋本陽（京都大学）/元ナミ（東京大学）/堀内暢行（国士舘大学）/シルヴィオ・ヴィータ（京都外国語大学）が参加し、バチカンお

よびイタリア側の協力者として、ラファエッレ・ファリーナ（バチカン枢機卿）/セルジョ・パガーノ（バチカン使徒文書館館長）/チェーザレ・パシーニ（バチカン図書館）/デリオ＝ヴァニア・プロヴェルビオ（バチカン図書館）/ルーカ・ミラージ（ローマ大学）/ジョヴァンニ・ヴィアン（ヴェネツィア大学）らがサポートに当たる。

また、分担者は現地での文書調査および目録作成を太田尚宏/湯上良/シルヴィオ・ヴィータ、修復を高科真紀、データベース作成を橋本/元/堀内が担当する。また、湯上/ヴィータは国際会議等の対外交渉を担当する。

代表者と分担者とは3ヶ月に一度の研究会議を開催し、バチカンでの現地調査の準備および収集データの共有を図る。

また、海外協力者とは現地調査においてミーティングを行う他、オンラインを通じて定期的に情報交換を行い作業の円滑化を図る。

③ 期待される学術的研究成果とその学術的・社会的意義

日本とバチカンとの関係は、戦国期に始まり近世の断絶を経て近代になって復活するが、近代以降の日本国内におけるキリスト教布教の実態、また布教を通じて日本社会に与えた教育・文化的影響、さらには宣教師を通じてヨーロッパへ伝わった日本の文化資源（歴史資料や文化財など）および文化資源がヨーロッパに与えた影響、バチカンの世界戦略のなかの日本の位置づけ、など個別的な研究を除けば未だその全体像が明らかにされていない。その一因は、これらを実証的に明らかにする文書記録（アーカイブズ）の調査が部分的なものに止まっており、なかでもバチカンに保管されている文書に関しては、その中核となる駐日使節館文書が2020年まで非公開であったこともあってほとんど研究者に知られていなかったことが挙げられる。今回のプロジェクトを実施することで、これまで学術的に知られていなかったバチカン駐日使節館文書を始めとする日本・バチカン関係アーカイブズの全容を明らかにすることが十分可能である。

本研究が実施する修復から目録化を経てデータベースとして広く公開するまでの一連の地道な作業は、学術研究において基礎的かつ重要なものであり、日本・バチカン・イタリアのアーカイブズ学の専門家を中心に広く学術研究に寄与する研究資源の情報基盤整備を図ることの意義は極めて大きい。そして、このプロジェクトによって構築された情報基盤は、歴史学に止まらずさまざまな領域研究に活用され、研究の多角化、そして多様な成果の発信へとつながるものとなる。

さらに、学術研究へ貢献するなかで多くの成果が発信されることで、社会的にも日本とバチカンとの関係が近代以降においても深い関係が築かれ、双方の文化的影響関係の多様性があったことが認知されることにつながる。現状では、「隠れキリシタン」といった一面的な側面に関心が集まりがちであるが、学術研究が進展するなかでさまざまな成果が発信され、その結果、両国間の歴史に対するイメージが豊かになり、友好親善関係がより深まるであろう。また、日本では宗教に対する関心や理解が国際的にも高いとはいえないが、バチカンとの歴史的関係を知り、キリスト教文化圏を理解することは、国際化社会のなかの日本を考える上でも重要かつ不可欠であろう。さらに、多文化共生が求められる現代において、異なる宗教を基盤とする社会がいかに関係していくか、そのモデルケースのヒントを提示できるものである。本研究プロジェクトは学術研究に止まらずその成果による社会的課題解決を強く意識しており、その面からも社会的インパクトは大きい。

④ 研究成果の発信（調査地での発信等を含む）、共同利用及び国際化への貢献

本研究プロジェクトは、学術研究を支えるアーカイブズ情報基盤（データベース中心）を構築することが目標である。この情報基盤は共同利用にふさわしくさまざまな領域の研究者に開かれ、多角的・多面的な研究アプローチを可能とするものであり、ユニークかつ先端的な研究成果を生み出す源泉といえる。また、日本・バチカン・イタリアの国際共同研究によって推進されることから、主にヨーロッパにおいて研究プロジェクトの意義と成果を積極的に発信することになる。また、バチカンの対外政策に関わるアーカイブズ情報であることから、プロジェクトの成果は日本に止まらず国際的であり、多くの海外研究者もデータベースを利用することが予想される。この点においても日本発の学術情報発信としての意義が高い。

なお、本研究プロジェクトの具体的な作業・調査研究は、日本およびバチカン・イタリア側と共同で行う国際的な取り組みが最大の特徴である。さらに、本研究プロジェクトの成果を海外に発信するなかで、多くの研究者に呼びかけて国際コンソーシアムを形成し、本プロジェクト終了後の大規模学術研究（東アジアにおけるキリスト教布教と宣教師情報ネットワーク）へとつなげる可能性を想定している。キリスト教文化圏に属さない日本があえてその特性を生かして、「キリスト教」をキーワードに研究成果を発信し国際的な研究ネットワークを構築することは、冒険的であると同時に国際的に多くの注目を集め得る試みである。そのためにも本研究プロジェクトで構築されるアーカイブズ情報基盤はさまざまな可能性を秘めている。

学術研究の「国際化」とは、限られた同じ分野の研究者ではなく、全く研究上の接点がないと思われていた海外の研究者からいかに注目を集めるかが重要と考える。本研究プロジェクトはその点を強く意識しながら海外からの注目を集める成果を発信し、結果として日本研究の国際化に貢献するであろう。

また、情報基盤構築を広く周知するために国際シンポジウムをバチカンで開催し報告集（日本とバチカン-宗教を超えた500年の交流）を刊行する。さらに、調査研究の進捗に応じてさまざまな国の研究者にも参加を呼びかけて国際コンソーシアムを形成し、本プロジェクト終了後の大規模学術研究（東アジアにおけるキリスト教布教と宣教師情報ネットワーク）へとつなげていく。

⑤ 達成目標

- ①駐日使節館文書の修復と重要文書のデジタル撮影（2024年度完了）
- ②駐日使節館文書目録作成（2026年度完了）
- ③使節文書館所蔵日本関係文書の調査とリスト化（2026年度完了）
- ④国務省・福音宣教省所蔵日本関係文書の調査とリスト化（2026年度完了）
- ⑤パリ海外宣教師教会文書館所蔵日本関係文書の調査とリスト化（2025年度完了）
- ⑥サレジオ教会所蔵文書の調査とリスト化（2025年度完了）
- ⑦調査リストのデータベース化（2027年度完了）
- ⑧国際共同研究会議の開催（2027年度完了）
- ⑨国際共同研究報告書の刊行（2027年度完了）

⑥ 6年間のロードマップ

※ 主要な研究成果の発信（国際会議、成果物等）を中心に記載

年度	取組内容
令和4年度	調査概要研究報告書刊行

令和5年度	国内会議（データベース実装実験公開）
令和6年度	国際会議/ /データベース部分公開
令和7年度	国際会議報告集刊行
令和8年度	日本・バチカン関係アーカイブズ総合目録および研究報告集刊行
令和9年度	国際会議/国際共同研究報告書（論集）刊行/総合データベース公開